

図書館報

第131号
 平成28年2月19日
 大分工業高等専門学校
 図書館
 大分市牧1666番地
 TEL 097(552)6084
 FAX 097(552)6786



都市・環境工学科 亀野 辰三
 シェエダゴンパゴダ(ミャンマー)



情報工学科 轟 浩二
 Uppsala University - Campus
 Gotland 校の図書館(スウェーデン)



情報工学科 轟 浩二
 Uppsala University - Campus Gotland 校の
 自転車置き場(スウェーデン)



情報工学科 岡 茂八郎
 ミシガン州立大学図書館(アメリカ)



都市・環境工学科 亀野 辰三
 チャウタッジーパゴダ(ミャンマー)

〈もくじ〉

題字「図書館報」	(校長 古川 明德 書)	1
扉写真：コラージュ		
情報工学科 岡 茂八郎 / 情報工学科 轟 浩二 / 都市・環境工学科 亀野 辰三		1
日本語コミュニケーション	校長 古川 明德	2
シリーズ・私と読書(56)「素晴らしきかな わが読書人生」	都市・環境工学科 亀野 辰三	3
思い出の一冊	一般科理系 藤本 教寛	4
	機械工学科 中野 壽彦	5
	情報工学科 廣田 雅春	6
公開講演会・図書館活動報告	図書館長 山田 繁伸	7
平成27年度 学生図書委員名簿		8
平成27年度 読書感想文コンクール入選者及び貸出上位者・貸出上位クラス		8
編集後記	図書館長補佐 北川 友美子	8

日本語コミュニケーション

校長 吉川 明德



大分高専に着任する前に勤めていました大学の機械航空工学科機械工学コース（1学年定員 140 名）において担当していた演習科目「日本語コミュニケーション」について紹介させていただきます。

この科目は、私の 5 年先輩の村上敬宜先生が「文章の書き方、発表の仕方についての基本的な能力を身に付けさせる」目的で平成 15 年に学部 4 年生向けに設置されたものです [九大広報 No.39 (平成 17 年 3 月) 参照]。工学系技術者や研究者は、事実を正確かつ端的にまとめ、しかも分かり易く伝えること（論文や解説記事）、ときには魅力的に表現すること（申請書）が求められます。学生諸君は、自分が書いた授業レポートが近くにあれば見直してみてください。授業レポートとなると、先生はどんな難解な文章でも解説に努め、その内容を理解しようとしてくれます。しかし、時間が貴重な今の時代、難解な文章では人に読んでもらえるはずがありません。あなたが書いたレポートはいかがですか。事実をしっかり捉え、それを論理的に説明することができていますか。この科目は半期 15 コマで実施され、最初の 1 コマで、文書の書き方・読み取り方を全体講義・演習します。その後は小グループに分かれて、政府発行の統計資料や白書をもとに、まず、各自が論じようとする課題を設定、つぎに、その課題を浮き彫りにするデータを抽出して図表等を作成、そして、課題解決に向けた自論展開を明示、といった手順で発表訓練を重ね、学生同士や教員の批評を受けて、どうしたら人に理解してもらえるような書き方、話し方ができるかを学びます。これを 10 コマ行った後、最後に、全体に共通の作文課題を与え、A4 紙 6 ページの文章にまとめてもらいます（学外の方々に評価を戴き、優秀作文を表彰）。村上先生が担当された 3 年間、そして私が担当した 7 年間に課した作文課題は次の通りです。

H15：生まれてから目が見えない人に色という概念を教える。

H16：自分が今、ここに居るのは偶然か、必然か。

H17：力とは何か。

H18：持続可能な開発のために若い世代がなすべきこと。

H19：我が国が 20 年後にどんな国になって欲しいか。そして自分がそこで果たす役割とは？

H20：○○○○（機械・機器、機械システム）の

開発にかける夢。

H21：今日、機械エンジニアに求められていること。

H22：大学で学んだ「工学」とは。

H23：科学技術創造立国「日本」を考える。

H24：工学・工業的視点からあなたが提案する改革・改善

さて皆さんはこの課題を見て、作文の筋書き（起承転結）を描くことができますか。作文を評価して頂いた学外の方々から、次のようなご意見を頂戴しました。

- ・一般的に若年層の日本語能力が落ちていと言われているようですが、この取組みは是非継続して頂きたいと思います。
- ・弊社の昇格試験でも、論文試験を課しているのですが、昨今の文章力の低下には嘆きが多くなるばかりです。ぜひ継続していただくことを期待します。
- ・会社に入られても、自分の考えていることを簡潔に伝える、報告を書く、あるいは発表する機会は多く、だんだん鍛えられますが、周囲も忙しく、懇切に指導できないのが現状で、このような教育は本人のためにも社会のためにも、大変良いカリキュラムだと思います。 等々

学生諸君も、将来、技術論文や報告書を書くことを経験されるでしょう。技術論文では、読者が同じ調査を行って同じ結果が再現できるかをチェックできるように書くことが求められます。条件等が欠落し追証できないものは論文とは言えません。また、長い文章や主語の欠落、原因と結果が逆転・矛盾した論理、事実と意見の混同、そして色々な解釈ができる文章などは論文としては悪い文章です。良い文章を書くことに特効薬はありません。常に「悪い文章を書かない」と意識して書くことです。何度も、そして少し時間をおいて読み直すこと（できれば声を出して）も大切です。さらに、指導の先生からの添削を受けた場合には、なぜ訂正を受けたかをしっかりと理解検討することが必要です。同じ内容の論文や申請書でも、文章の良し悪し（魅力的な表現）によって評価が異なり、採択されるか否かにも影響します。

良い文章を書くように努力しましょう。これにより表現力、討論力も高まり、ひいては問題把握や独創的なアイデアを生む能力も向上することが期待できます。そのためには、日頃より多くの論文や解説書を読む癖を付けておくことです。とくに、同じ調査を行う立場から論文を読みますと、「こう書いたら分かり易いのに」と、その論文の粗が見えてきます。それが、あなたにとって文章表現改善の第一歩かと思います。

図書館は、あなたの文章力・表現力そして洞察力を高める宝庫です。どうぞ図書館をご活用ください。

復活

シリーズ・私と読書 (56)

素晴らしきかな わが読書人生

都市・環境工学科 亀野 辰三



生まれた時から病気に愛され続けた人生でした。3歳の時に結核を患い（上の二人の兄弟も同じ病気で他界したそうです）、小学校時代は激しい運動を禁じられていました。クラスの友達が校庭で野球をしている時もずっと眺めるだけの時間。でも、全然寂しさは感じませんでした。だって、私には「本」という素晴らしい友達がいたのですから。

低学年の時の最大の楽しみは、祖父が毎月買ってきてくれた「小学〇年生」（小学館発行）でした。発売日が待ち遠しかったのを今でも覚えています。図書館で借りた冒険ものの本も好きでした。『ロビンソン・クルーソー』（ダニエル・デフォー）や『十五少年漂流記』（ジュール・ヴェルヌ）に夢中になりました。これらの本は家に閉じこもりがち私を未知の世界に誘ってくれる役目を果たしてくれました。お陰で小学校時代の図書館貸出し数は断トツで一番で、今でもその記録は破られていないそうです。

中学生になると戸外での運動も許され、早速軟式テニス部に入部しました。同級生や先輩と一緒に運動ができるのがとても嬉しかった！。中学時代の思い出は軟式テニスしかなくて（一応、県体でベスト8まで進みました）、読書量も激減した時代です。

さて、土木工学科の2期生として本校に入学したのですが、勉強が難しく1年生の時は読書の余裕がありませんでした。しかし、2年生になると余裕も出てきて、図書館にせっせと通いだしました。同級生にもすごい本の虫がいて、彼とは良きライバルとなりました。部活はやはり軟式テニス部に入りましたが、読書の方が圧倒的に楽しかったです。読書傾向は年齢が上がるにつれ社会派の本が多くなり、石川達三、松本清張、北杜夫などの作家の本が好きでした。なかでも石川達三の『青春の蹉跎』は大人の世界を垣間見せてくれ、強烈な印象を残してくれました。たぶん、高専時代も5年間の総図書館貸出し数は一位だったと思います。

社会人になっても、本の虫は萎えませんでした。この頃から、本格的な小説にのめりこんでいきました。長男が1歳の時に読んだ『愛する者の名において』（マルタン・グレイ）は、涙を流しながら本を読み続けるという人生初の経験をしました。ユダヤ人が第二次世界大戦中に被った非人道的な迫害の悲劇は、皆さんも

『アンネの日記』（アンネ・フランク）などの作品で知っている人も多いことと思います。しかし、この本の作者のマルタン・グレイの生々しい体験記を読むと、その凄絶な現実にあらためて慄然とせざるをえません。ただお経のように「戦争反対！」を唱えておけば平和が来るということが如何に空疎なものかがよく分かります。「平和」は命を懸けて戦って奪い取るものであることをこの本は教えてくれます。

ところで、私の読書人生を振り返ると、最も真剣に本を読んだのは、33歳から53歳までの20年間ということがこの原稿を書きながら気づきました。この頃は健康状態も良好となり、3人の子育てに格闘しており、しばらく本から離れていたのですが、ある日、読書好きの友人から勧められた本を読んで、再び本の虫が蘇ってきました。それは、曾野綾子さんの『水なき雲』と三浦綾子さんの『この悲しみの世に』でした。二人の綾子さんの本は、強烈そのものでした。

そして、44歳の時に衝撃的な本に出会います。遠藤周平さんの『深い河』です。彼の作品は『沈黙』、『死海のほとり』など、宗教、愛、神など、人生を歩む上では重たいテーマを描いた作品が多いので、すべての人にお勧めはできないのですが、生き方に悩みが出た時に是非ともお勧めしたいのが、『深い河』です。最高に感動した本を一冊選べ！と言われたら、私は躊躇なく、この本をお勧めします。今日に至るまで『深い河』を超える本に巡り合っていないのです。

6歳から本に目覚め、これまで私の周りにはいつも本がありました。時に本から離れることもありましたが、そういう時には決まって良い本を教えてくれる素敵な友人が現れました。まさしく「類は友を呼ぶ」のですね。

退職までのこの9年間は、神様は私に最後の試練（頸椎損傷と癌）を与えてくれたのですが、長くて辛い入院生活やリハビリの日々も、「本を読む時間が取れた。」と前向きに捉えることができました。退職後も、書斎にあるまだ読んでいない本を読む楽しみが待ち構えています。ワクワクですね。



思い出の1冊

ブギーポップと相対性理論

一般科理系 藤本 教寛



「ブギーポップは笑わない」という小説がある。

これは、私が中学生の頃に人気を博した小説で、当時は親友を含めて多くの近しい人々がそれを手にして読んでいた。

その頃はライトノベルと呼ばれるジャンルの小説が中学

生の中でメジャーになり始めた頃で、このブギーポップシリーズもそのライトノベルに分類される。当時の私は映画に音楽にと興味を傾いていて、小説とはほとんど無縁の生活を送っていたわけだが、親友からの強い薦めで、渋々この本を手にとった記憶がある。

しかし当時の私は、この本の最初の章を読んだだけで、非常に大きな衝撃を受けた。これまでの人生を振り返ってみても、これほどまでに既存の価値観への変化を迫られたことは、あまり記憶に無い。

その最初の章では、主人公とおぼしき少年の視点で話が始まって行くのだが、どうせたらたらと青春ストーリーが展開していくんだらうと高をくくっていた私の目の前で、突然なんの盛り上がりもなく、ストーリーが完結してしまったのである。物語の本筋は全く見えてこず、「主人公がブギーポップと呼ばれる不思議な存在に会った、おわり。チャンチャン。」ぐらいの内容だったのである。「どういうことだ」と全く腑に落ちない私を出迎えた第二章は、何の説明もなく全く違う登場人物の話が淡々と語り始め、第一章との関係性も説明されぬままにページは先へと進んでいった。

これが、ただただ複数の人間による複数の視点が語られただけの物語であったのなら、この小説は私の中で「すごい出落ちの小説だった」というだけの存在であり続けたであろう。だが、この小説のすごい点は、読み進めていくうちに全く独立だった登場人物の視点が噛み合い始め、物語を読みきった時には「ブギーポップ」と呼ばれる存在を多角的に記述した壮大なパズルが完成するところである。物語が完結したとき、最初に出落ちとして終わってしまった章に大きな意味が生まれ、全てがそこに収まるべくしてあったのだとわかるのである。

この小説を読んで私は思った。

「真実は1つだが、事実は人の数だけある。」

1つの不変的な真実も、複数の観測者がいればその数だけ事実があるということが客観的に見える小説だった。

そんなブギーポップの小説の存在を、ふと大人になって私が思い出したのは、かの相対性理論を学んだ時である。

名実ともに天才と称される偉大な物理学者、アルバート・アインシュタインが作った相対性理論は、特殊相対性理論と一般相対性理論の2つから成るが、そ

れらを噛み砕いて解説するならばまさにブギーポップなのである。

「真実は1つだが、それがどう見えるかは観測者の状況に依る。」

例えば棒を用意して、それを上下左右斜めなど色々な方向から眺めるとすると、角度によっては棒の長さが短くなったりして見えるだろう。棒の長さそのものが変わっているわけでないのだが、それを誰がどのように見るかによって、その見え方が変わってしまうというのが相対性理論の本質である（と筆者は理解している）。

実際の相対性理論では、上記の棒のような空間的な長さが変わらないのではなく、(光速と) 時間を作る1次元+縦・横・高さの3次元空間が作る4次元時空間(!?)の長さについて、「本来は変化していないのに、見方によっては変わって見える」という風に議論が進むので、なかなか理解が難しいところである。しかし棒の例と本質的には同じことで、見る人によっては棒の長さが短く見えたりするのと同じような感覚で、見る人によっては相手の時間の進み方がゆっくりに見えたり(時間の遅れ)、物体の長さが縮んだりしているように見えたりする(ローレンツ収縮)。実際、これらの時間の遅れなどの効果を感じている衛星の原子時計などに、時間遅延の理論的補正を入れることで今日のGPSなどは正しく稼働していることは、驚くべきことである。結局、4次元の棒の長さは変わっていないのだが、見方の問題で時間・空間の成分が伸び縮みしているように見える。

「真実は1つだが、見え方は観測者の数だけある。」

まさにブギーポップである。

ふと考えてみると、ブギーポップや小説よりも奇な相対性理論に現れるこの共通の見解は、全く持って我々の生活にもそのまま当てはまることではないだろうか。

真実は1つしかなくても、自分と自分を取り巻く仲間、先生、学校、組織、社会、様々な見方がそれぞれ固有の事実を作り出す。その結果、同じことを言っても意見が食い違い、喧嘩があり、不和を呼ぶ。しかし、結局は同じものを別の視点で見ているだけに過ぎない。それが理解できていないから喧嘩する。世の中、そんなようなものではないのだろうか。

相対論を勉強し、ふとブギーポップを思い出した時、私は人知れずそんな考えを巡らせてた。そして、その考えは、今尚私の人生を導く指針の一つとなっている。そういう意味で、これらの本が私の記憶に残る一冊となった。

文献

- [1] ブギーポップは笑わない、上遠野 浩平 著、電撃文庫、1999.
- [2] 場の古典論、ランダウ＝リフシッツ 著、恒藤敏彦、広重 徹 訳、東京図書株式会社、1987.

思い出の1冊

★ 恐るべき旅路 —火星探査機「のぞみ」のたどった12年— 松浦 晋也 著

機械工学科 中野 壽彦



2003年5月、JAXA（宇宙航空研究開発機構）が開発した小惑星探査機 MUSES-C が、内之浦宇宙観測所から打ち上げられました。「はやぶさ」という愛称がつけられたこの探査機は、その後数々の困難と試練に見舞われ、あわや絶体絶命という窮地に陥ります。しかし地上の運用チームによる懸命の復旧作業により生き残り、打ち上げから7年という時を経て、小惑星イトカワで採取した砂の粒子を保存したカプセルとともに地球に生還、人類史上で初めて「月以外の天体からのサンプルリターン」を成功させました。奇跡的、とも形容できるこの劇的な快挙に当時の国内は沸き立ち、雑誌、テレビ、映画などで度々取り上げられ一大ブームとなりました。

この輝かしい偉業が達成される以前、ある一つの探査機が、日本として初めての火星探査に挑戦するため、打ち上げられました。この探査機もはやぶさと同様に、打ち上げ後から度重なる試練に見舞われてしまいます。地上運用チームは、何としてでも探査機を復活させるため、連日に渡り必死の運用がなされました。しかし、遂にこの探査機は、本来の使命である火星探査を果たすことができませんでした。探査機の名前は PLANET-B、愛称を「のぞみ」といいます。

本書は、火星探査機「のぞみ」の、ミッション立案から設計、開発、打ち上げ、運用、そして結末に至るまでの12年間の経緯について記したノンフィクションです。著者の松浦晋也氏は、自身も大学の理工学部を卒業し、航空宇宙工学分野に精通した科学ジャーナリストです。本書は「のぞみ」の開発に携わった研究者、技術者を対象とした徹底的な取材に基づいて執筆されたものであり、開発や運用の舞台裏で一体何が起こっていたのかを、綿密に、そしてドラマチックに描いています。

「のぞみ」はその開発の当初から様々な困難を乗り越える必要がありました。まず他国の宇宙開発のものと比較すると桁違いに少ない予算の中で、ミッションを実現する必要がありました。米国やソ連の惑星探査では、技術試験用と本格的な探査用の二系統で開発を進め、着実に技術を蓄積していくことが出来ました。しかし日本では十分な予算がなく二機の探査機を上げることが出来なかったため、「のぞみ」一機に技術試験と本格探査の二重の役割を負わせなければならぬリスクがありました。また当時の日本のロケット M-V の打ち上げ能力は、探査機を火星に到達させるためにはぎりぎりでした。加えて僅かな打ち上げ機会でも多くの成果を上げることが要求されたため、14種類もの観測装置を搭載することになりました。その結果、探査機は極限までの軽量化をしなければならず、探査機が本来持っているべき余裕がない設計となってしまうました。このような背景があり、推進剤タンク

に使用するラッチングバルブを国内で開発できず、米国からブラックボックスで買ったものを使用しました。

結果的にそのバルブが原因で探査機に致命的なトラブルが生じます。さらに軽量化のため電源系統を少なくしたことが、最終的に探査機の生存の可能性を無くしてしまう結果につながりました。

火星探査の目的は果たせませんでした。技術実証として数々の成果を残しました。また「のぞみ」の運用の中で考案された「1ビット通信」という技術は、後の「はやぶさ」が通信困難な状況に陥った際に活用され、窮地を脱するために絶大な貢献をしました。私が本書と出会ったのは、佐世保高専の5年生に在籍している時です。当時、卒業後の進路として大学への進学を決めていましたが、具体的にどのような分野に行くかあれこれと考えている中で、漠然と「宇宙」に関係するような道を目指したいと思うようになっていました。そんな中、父が図書館から借りてきた本書をなんとなく手に取ったのが出会いだったと思います。

本書は「のぞみ」の開発、運用の実際を通じて、日本の宇宙開発に存在する厳しい現実や問題点に言及し、また政治やマスコミの宇宙開発に対する基本的な知識や理解の欠如を浮き彫りにして批判的に記しています。しかし同時に、本書には宇宙開発の最前線で奮闘する様々な研究者、技術者たちが登場し、彼らの魅力についてもたっぷり紹介しています。当時の私は、最後の最後の最後まで、決して諦めず希望を捨てなかった彼らの闘いぶりを読んで、「かっこいい！」と思いました。そして自分も将来、このような世界に関わっていくことが出来ればいいなと思い、「宇宙工学」の分野を目指す決意を固めました。結果として、大学院では人工衛星の開発などに携わり、そのうち2年間は「のぞみ」「はやぶさ」の生まれ故郷である相模原の宇宙科学研究所に毎日通って、貴重な体験をすることが出来ました。現在、私は成層圏気球を使った天体観測技術の研究を続けさせて頂き、「宇宙」に関わる生活を送れているのも本書がきっかけであり、私にとって大事な一冊です。

この原稿を執筆している2015年12月、「のぞみ」に続く日本の惑星探査機である「あかつき」が、最初の金星軌道投入の失敗から5年を経て、軌道再投入に成功したという嬉しいニュースがありました。「あかつき」の打ち上げでは、相乗りとして「UNITEC-1」という深宇宙探査機と一緒に打ち上げられましたが、その探査機には私が開発に加わったコンピュータが搭載されていました。あれから5年・・・私は色々ありつつ、どうにか大学院を卒業できて、いまこうして教員として働かせていただいています。この間「あかつき」の運用チームが、毎日休むことなく探査機を見守り続けこの時を迎えたのだと想像すると、頭が下がる思いです。私も研究者の端くれとして、彼らに負けない情熱を持って、研究に取り組んでいきたいと思われれます。

思い出の1冊

★ 7つの言語 7つの世界 Bruce A. Tate 著, まつもと ゆきひろ 監訳, 田和勝 翻訳

情報工学科 廣田 雅春



情報学を学ぶ上で、プログラミングは、非常に重要な能力のひとつである。我々は、プログラミングによりソースコードを作成することで、コンピュータに自分の意図したことを処理してもらうように指示を与えることができる。

はじめに、プログラミングとはについて述べる。普段は、Web上のデータを用いて研究をしているので、その中のリソースのひとつである Wikipedia を見ると、“ほとんどのプログラミングは、プログラミング言語を用いてソースコードを記述することで行われる” [1] とある。そして、プログラミングの品質や、信頼性、効率性、頑健性、可読性などを考慮しつつ、ソースコードを作成し、それをコンパイルするなどしてコンピュータに実行させる。

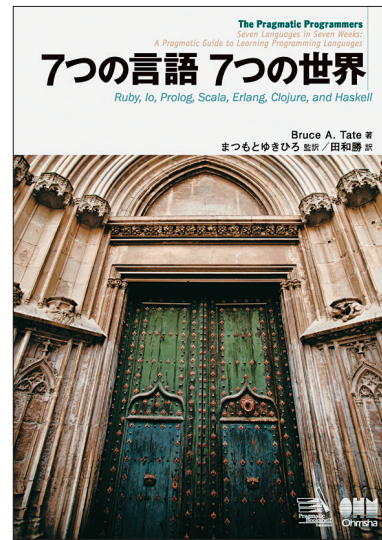
プログラミングといっても、世の中には無数のプログラミング言語が存在している。たとえば、情報工学科では、プログラミングの授業で [C]、[Java] を学び、私の研究室では、[Scala] や、[JavaScript]、[PHP] などのプログラミング言語を用いる。また、変わったプログラミング言語としては、日本語でソースコードを記述することが可能な [なでしこ] や、空白文字だけで構成されている [Whitespace] などもある。

そして、それらの言語では、様々なプログラミングの考え方によって成り立っている。たとえば、論理ベースの [Prolog]。オブジェクト指向の概念を完全にサポートした言語である [Ruby]、[Scala]。関数型の性質を備えた [Clojure]、[Haskell]、プロトタイプ言語である [Io] などもある。そのなかでも普段、私が用いている [Scala] はマルチパラダイム言語である。この段落であげた言語の多くは非常に新しく、たとえば、[Scala] は、2004年頃に公開されている。さらには、これまでも、プログラミングの考え方は、どんどん多様になっているため、プログラミングを行うよう必要がある我々は、それらについて学ぶ必要がある。

我々のような立場の人間や、情報工学科を卒業してプログラミングに携わるエンジニアに成りたい学生にとって、新しいプログラミング言語、パラダイム、技法を直接に学ぶということは、非常に重要であり、これらの知識を理解していることは、設計能力などのプログラミング能力が大きく向上し、プログラマの幅が広がると考えられる。

私は、プログラミングに関する事柄について学習す

るために、7つの言語 7つの世界 [2] という本を読んだ。この本では、これまでに述べてきたことがらについて、短いチュートリアル形式で7つの言語についての特徴などを解説している。



7つの言語は、[Scala]、[Erlang]、[Ruby]、[Clojure]、[Haskell]、[Io]、[Prolog] である。多くのプログラミングに関する指南書は、1つのプログラミング言語について数百ページ程度の分量であり、インストールや、基礎的な使い方から解説していることが多い。しかしながら、この本は、プログラミング言語の特徴に絞って解説しているため、非常にわかりやすい。比較的新しい言語について興味のある学生や、授業で [C]、[Java] などを学習してこれから他の言語に取り掛かりたい学生、これからプログラミングを始めたいがどの言語をやればいいのかわからない学生にとってはこの本を手にとってどのような言語があるのかや、それらがどのような考え方に基づいているのかをぜひ感じ取ってほしい。

[1] プログラミング (コンピュータ), https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B0%E3%83%A9%E3%83%9F%E3%83%B3%E3%82%B0_%28%E3%82%B3%E3%83%B3%E3%83%94%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%82%BF%29, 2015/12/24

[2] 7つの言語 7つの世界, Bruce A. Tate (著), まつもと ゆきひろ (監訳), 田和勝 (翻訳), オーム社, 2011.07.23

公開講演会 図書館活動報告

公開講演会を開催

大分高専図書館初めての試みとして、平成27年10月31日土曜日13時30分から16時まで、明治明野公民館において、公開講演会を開催しました。地域社会との連携の推進担当である本校の地域連携交流センターとの共催。15人の熱心な聴講者にご参加をいただきました。お礼申し上げます。会場の使用にも大分市のご協力をいただきました。ポスター、チラシは図書係が作成しました。

講演は、本校の3人の教授によるものでした。第1講演は、情報工学科の丸木勇治教授が「図書館と情報システム」、第2講演は、同学科の岡茂八郎教授が「図書館には電気の歴史と今がいっぱい」、第3講演は、一般料理系の吉澤宣之教授が「南極に持って行ってまで読みたかった本」のタイトルで、それぞれ50分間ずつ話をしました。興味深い話に多くの質問も出ました。

本校は平成7年から図書館を一般市民に開放しています。図書の閲覧だけでなく、図書の貸し出しも行っています。一般への開放を知っている人は、有効に本校の図書館を利用してくださっています。しかし、図書館の開放はまだ十分一般の方々へ知られていません。今回の講演会は、より多くの方々に本校の図書館を利用してもらいたいと考え、企画されたものです。多くの市民の方々が大分高専図書館へお越しくださることを期待しております。利用の手続き等は、本校ホームページの図書館のサイトにも出ていますので、ご参照ください。



公開講演会の様子

図書館活動の報告

図書館活動を企画・運営する組織として、「図書館運営委員会」と「学生図書委員会」とがあります。図書館運営委員会は、各学科を中心に選出された教員によって構成されています。また、学生図書委員会は、各クラスから選出された学生によって構成されています。学生委員は、本図書館報8ページの委員名簿のとおりです。全体的な方針や活動・行事の企画等は、年度当初に開催される図書館運営委員会において決定されます。本年度も例年とほぼ同様な活動・行事を企画しました。

昨年度と違った活動・行事は、公開講演会の開催と図書館への漫画資料の導入の検討でした。公開講演会は上記報告のとおりです。漫画資料の導入に関しては、各学科に検討していただき、更に図書館運営委員会で検討し、学習に資するものや作品レベルの高い漫画を

慎重に審査して、図書館に導入することとなりました。すでに各学科から推薦をいただいた漫画資料は、導入しております。今後とも有益な漫画資料は導入する予定です。学生は学習に役立ててください。

外部の会議等への参加を報告します。6月9日火曜日、ホルトホールで大分県高等学校図書館担当者会議があり、図書係長が参加しました。8月5日水曜日、ホルトホールで大分県高等学校図書委員研修会が行われ、学生3人と図書係長が参加しました。3人は、1E深津美希さん、2C小島広行君、3M水間達也君でした。小島君は、本校を代表してビブリオバトルにも出場しました。堂々と発表していました。9月10日木曜日、溝部学園短期大学で、大分県大学図書館協議会総会・講演会・情報交換会が行われ、図書係長と図書係長が参加しました。大学・高専のかかえている問題点が協議されました。講演会は元溝部学園短期大学教授の田邊勲氏による講演でした。全国図書館大会には、都合により参加できませんでした。

広報として、「図書館報」と「図書館だより」が発行されました。「図書館報」の編集は図書係長補佐が中心になって行い、「図書館だより」は学生図書委員会によって編集発行されました。「図書館だより」は年1、2回発行され、学生図書委員会活動報告や図書委員お勧めの本紹介をはじめ有益な情報がタイムリーに提供されています。

読書感想文コンクールの作品集である「もさく」が今年度も発行されました。「もさく」作成は学生図書委員長の5E平野瑠唯さんを中心に行われました。表彰式も1月の終りに行われ、式後の懇談会では読書への思いが語られました。

学生図書委員会の主な活動は、委員会の開催とそれに基づくブックハンティングと読書会との実施でした。ブックハンティングは6月18日木曜日と11月13日金曜日との2回実施されました。図書委員が明野アクロスにある紀伊國屋書店に向いて、そこで図書館購入推薦図書を選ぶ活動です。他大学では選書ツアーと呼んでいるところもあるようです。学生の感覚でいい本が選ばれました。読書会は7月6日月曜日に図書館2階の総合メディア教室、11月20日金曜日に図書館2階の情報教育ゼミナール室で行われました。今年度は、ビブリオバトルを行いました。7月6日は参加者14人、11月20日は6人でしたが、熱心な発表が行われていました。発表後の懇談会も和やかに行われました。

今年度の図書館活動を簡単に報告しましたが、是非多くの学生が図書館へ足を運んでもらいたいと思います。

(図書館長 山田繁伸)



11月20日 読書会記念撮影

平成27年度 学生図書委員名簿

学科 / 学年	任期	機械工学科	電気電子工学科	情報工学科 (制御情報工学科)	都市・環境工学科
1	1年	池田 圭 佑	深津 美 希	濱田 裕 太	新宮 百 恵
	前期	上村 悠 貴	後藤 茜 音	嵩末 昌 雄	深町 翼
	後期	上村 悠 貴	渡邊 航 平	嵩末 昌 雄	竹田 はるか
2	1年	五十川 稜 太	吉野 佑 弥	多賀 舜 哉	小島 広 行
	前期	岩下 建	平川 裕 人	○河野 実 裕	土師 康 平
	後期	箕原 太 一	平川 裕 人	○河野 実 裕	浦上 なるみ
3	1年	○高橋 雄 文	中尾 優 太	齊藤 征 孝	米光 佑 太
	前期	水間 達 也	長谷川 慧	姫野 悠 衣	河野 武 蔵
	後期	水間 達 也	長谷川 慧	姫野 悠 衣	安東 将 吾
4	1年	安藤 達 也	佐藤 久 周	相澤 瑠 奈	山田 麻 矢
	前期	淡野 直 人	川野 航 平	尾崎 光	村上 慶 行
	後期	淡野 直 人	川野 航 平	尾崎 光	森田 真 由
5	1年	高木 洸	◎平野 瑠 唯	小谷 朋 生	大山 太 郎
	前期	高橋 育 郎	荒金 直 樹	徳光 哲 也	アズルル アリス
	後期	高橋 育 郎	徳永 悠	徳光 哲 也	アズルル アリス

*図書委員は上段が1年任期 ◎学生図書委員長 ○学生図書副委員長

平成27年度 読書感想文コンクール入選者

	クラス	氏名	作品名	著者名
第1位	1S	井上 響 生	『永遠の0』を読んで	百田 尚 樹 著
第2位	1M	宿野 圭 佑	『あつこと僕らが生きた夏』を読んで	有村 千 裕 著
第3位	1C	佐藤 美 鳩	十人十色 - 『レインツリーの国』を読んで	有川 浩 著
佳作	1M	篠田 侑 実	『智恵子抄』を読んで	高村 光 太 郎 著
//	1E	松崎 萌 花	『永遠の0』が教えてくれたもの	百田 尚 樹 著
//	1C	岡崎 夢 乃	『犬と私の10の約束』を読んで	川口 晴 著
//	1C	手嶋 萌	強く優しく - 『氷点』を読んで	三浦 綾 子 著
//	1C	若菜 遼 甫	心理の真理 - 『WILL』『翼』を読んで	『WILL』本多 孝好 著 『翼』白石 一文 著
//	2C	小谷 華 加	『神様のシナリオ』を読んで	松居 幸 奈 著
//	3E	平野 音 瑠	幸福になるには - 『自分の人生に一番いい結果を出す幸福術』を読んで	カール・ヒルティ 著 齋藤 孝 訳・解説

平成27年度 貸出上位者・貸出上位クラス

貸出上位者

順位	クラス	氏名	貸出冊数
第1位	2E	吉野 佑 弥	206冊
第2位	2C	小島 広 行	127冊
第3位	2M	船越 啓 樹	123冊
第4位	5C	アズルル アリス	121冊
第5位	2E	平川 裕 人	96冊
第6位	3E	中尾 優 太	90冊
第7位	3M	竹林 男	61冊
第8位	2C	小谷 華 加	56冊
//	5C	山本 寧 音	56冊
第10位	3S	佐藤 太 朗	48冊

貸出上位クラス

順位	クラス	貸出冊数
第1位	2C	401冊
第2位	2E	353冊
第3位	5C	285冊



編 集 後 記

図書館報131号が無事に刊行される運びとなりました。皆さまのご協力に大変感謝申し上げます。1年間という短い間でしたが図書館長補佐として、様々な行事にも参加させていただきました。中でも、学生の皆さんに交じってビブリオバトルを体験し、ワクワクしたことが印象的です。本は孤独に楽しむものでもありますが、そこで養われた知性や感性は、他者とのコミュニケーションを円滑にしてくれる大切な宝物となります。これは学問にも通じています。皆様には是非たくさん図書館へ足をお運びいただきたいと願っております。